奉仕を通じて
平和を
2012-2013 年 RI会長 田中 作次
第 2640 地区ガバナー 北中 登一

海南東ロータリークラブ
ROTARY CLUB OF KAINAN EAST
RI District 2640 Japan

第 1722 回例会

平成 24 年 10 月 22 日(月)

18：00～ 海南保健福祉センター
海南３クラブ合同公開例会

１．開会点鐘

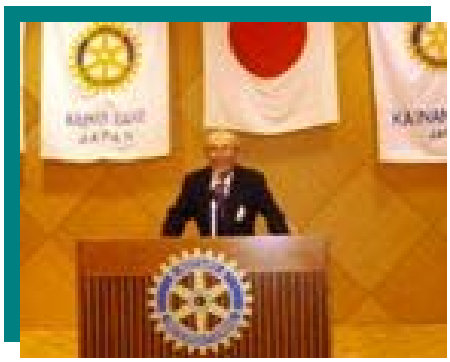
２．ロータリーソング 「奉仕の理想」

３．ゲスト紹介 稲むらの火の館 館長 熊 野 亨 様
米山奨学生 代 向 斐 様

４．出席報告

会員総数 55 名 出席者数 36 名
出席率 65.45% 前回修正出席率 74.55%

５．会長スピーチ 会長 花田 宗弘 君



本日は海南３クラブの合同の公開例会となり 稲むらの火の館の館長 熊野 亨氏による講演会です、多数出席頂き有難う御座います。RC の岡本会長が地区大会のゴルフに出席のため少し遅れますし、西 RC の松本会長には後ほど舞台で講演者の紹介をして頂きますので、代表して本日の合同例会経緯を話させて頂きます。

今期初めに開催された海南３クラブの会長･幹事会で、会員減少が進んでいる中にあって、クラブ単位では、たいしたことが出来ないので、プロジェクトによっては 3 クラブが合同で実施した方が良いのではないかと云うことになりました。

現在決まっているのは、本日の公開例会と来年 3 月に開館予定の市民病院玄関口への植樹です。引き続き適当な案件があれば 3 クラブで話し合って検討して行きたいと考えていますのでご協力方よろしくお願い致します。

10月は職業奉仕月間です

６．幹事報告 幹事 中西 秀文 君

○例会臨時変更のお知らせ

和歌山北 RC 11 月 5 日(月)→11 月 4 日(日)
11:45～ 京都 レストラン嵐山
(秋の親睦家族例会)

和歌山西 RC 11 月 29 日(水)→11 月 20 日(火)
18:00～ ３クラブ合同例会
ダイワロイネット H４F

和歌山東南 RC 11 月 28 日(水)→11 月 29 日(木)
12:00～ 神戸北野ホテル
(親睦家族旅行・例会)

７．公開講演会

稲むらの火の館 館長 熊 野 亨 様

「濱口梧陵と津波防災」～梧陵の心伝えます～

①稲むらの火

紀州人の伝統的精神、これが「黒潮文化」と呼ばれます。黒潮文化は、黒潮に乗って房総半島(千葉)に文化を伝えた。そのひとつに醤油の生産があり、千葉にはその条件が揃っていた。また、江戸という大消費地が近くにあり、発展していった。

濱口梧陵は、紀州湯浅の醤油商人である濱口分家・七右衛門の長男として生まれる。12 歳で本家(濱口儀兵衛家)の養子となって、銚子に移る。醤油醸造業を営む濱口儀兵衛家(現･ヤマサ醤油)当主で、七代目濱口儀兵衛を名乗った。

元禄の頃、稲むらの火と濱口梧陵と「稲むらの火」が尋常小学校５年生の国語の教科書に載った時代がありました。「これはただ事でない」の書き出しで始まる稲むらの火です。昭和 12 年から 22 年まで国語の教科書の中に載りました。でも、これはあくまでも物語なのです。事実とは少し異なります。

私、この稲むらの火の物語を説明するのに紙芝居を用います。短縮バージョンで紹介しましょう。いろいろ違いがあります。例えば主人公の名前が違います。それでは紙芝居に入りましょう。

今、グラグラと地震が揺ったところです。

「これはただ事でない」きっと津波が来るに違いない。

事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)
電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266
会長：花田 宗弘 幹事：中西 秀文 ＳＡＡ：那須 正志
http://www.kainaneast-rc.jp E-mail：info@kainaneast-rc.jp

高台から沖の方に目をやると、潮が沖へ沖へと引いていきます。みるみる砂原が現れたかと思うと真っ黒い岩底も現れてきた。「大変だ、津波が襲ってくる。早く村人に知らさねば大変なことになる。」ところが村人は、明日が秋祭り。
誰も津波が来るとは思ってはいません。「早く村人に知らせて、こちらの高台に呼ばないと津波にのまれてしまう。何かないか、何かないか。」そのとき、田んぼに稲むらがあった、(お米がついています)「もったいないが仕方がない。これで 400 人の村人の命が救われるのだ」と。五兵衛じいさんこの稲むらに火を放つのです。次から次へと火を放つ五兵衛じいさんです。燃え上がった火を見た村人が、「ありゃ～、庄屋さんの家だぞ、みんなで消しに行くぞ。」若者が次から次へと火を消しに高台へ高台へと登ってきます。

最初に到着した若者が火を消そうとすると、「消してはならぬ、それより 400 人の村人をみんなこちらに呼んでくるのだ。」

村人が次から次へと高台に上がってきます。それをこの五兵衛じいさん、「早く来い、早く来い」と、なんと人数を数えているのです。400 人になるまで数を数えています。そして、みんな来たか。

そのとき、大津波がゴ～と襲ってきました。村中の家々を飲み込んでしまいました。それをただ呆然と眺めているだけの村人でしたが、ふと我に返ると、我々は五兵衛じいさんに助けられたのだなあと、跪きました。五兵衛じいさんは、みんな助かって良かった良かったと涙ぐむのでありました。

という、紙芝居です。至ってシンプル、至って単純でしょう。実は、稲むらの火のポイントはここなのです。ではどうして、10 月の秋祭りの時期なのか。
「稲むらの火」は、稲むらを燃やすというのは本当です。本当のお話は安政元年海嘯の様子。海嘯というのは津波のことです。梧陵さんの手記にこのように書いています。白浜方面から津波がやってきて、陸にあたるとドーンドーンとまるで大砲が連発するような響きが聞こえてきた。だから海を見に行ったのです。

そして、潮が引かなかったというのです。物語の中では、潮が沖へ沖へと引いていくという表現があります、しかし、潮は引かなかった。ここで、津波には潮が引く場合と引かない場合があると言うことです、注意して下さい。唯我独尊の覚悟・・難しいですね。仏教用語です。「自分を犠牲にして、人を助ける」「お釈迦様が解脱することが尊い」梧陵さんはこの状況の中で、梧陵の手記に稲むらの闇夜を照らす道明かり、道明かりとして方向を導いたのです。これにより 9 人が生還しました。物語では村人 400 人、100%助けられました。事実は人口 1,323 人、97%助けられました。これは奇跡だと言います。

②濱口梧陵生涯（前半）

梧陵さんを学んでいる人は言います。梧陵さんほどの人格者に出会ったことがないと。どこにその魅力があるのだろう。梧陵さんの生涯についてたどってみましょう。

梧陵は 1820 年、広村の生まれます。父は梧陵２歳の時に亡くなります。以来、母親（しん）の手で育てられます。梧陵、人生の節目節目で名前が変わる。七太・儀太・儀太郎・儀兵衛・梧陵。七太にとって 12 歳の時転機が訪れます。実の母のことを「おばさん」と呼ぶ関係になる。たとえ主人になる人であっても、少年時代から遊び暮らすのはもってのほか、使用人と仕事や生活、醤油造りの修業にはいるのです。12 歳というのは、今の子 11 歳、親思う、ふるさとを思う気持ちは強かったと思います。銚子の家には、実のおじいさんがいました。村人からも尊敬・人格者。梧陵の清く優れた人格は、かんぽの影響を受け、育ったからと思われます。

少年期、「経世済民」の志。荻生徂徠の影響を受ける。槍術の達人の三宅艮斉（こんさい）との出合いで、終生の兄であり、師であった。当時は漢方と蘭方とがしのぎを削って、お互いに譲らない時代でありました。ですから、幕府は風土の違いを理由に蘭方の禁止を通達。ツテを頼りに銚子へ、梧陵は艮斎から西洋の事情を学ぶ。お互いに 20 代。堤防つくりが一段落ついた安政５年。コレラが江戸で大流行します。この時、漢方の医者は対処法がわからなかったものですから、蘭方の禁令が解かれる。同じ安政５年春、種痘館を開設。ところが種痘館が僅か７ヶ月で火事よって焼ける。これには、蘭方医達が 82 人から 580 両もの寄付を苦労しながら集めた。再度の寄付は断られる。そんなときに、艮斎が梧陵に援助を願い出る。梧陵は即座に 300 両。さらに翌年 400 両の寄付。この種痘館が西洋医学所になり、時代を経て、現在の東京大学医学部へと続くわけです。

もう一人の人物を紹介します。生涯の友であり交友を深めた勝海舟である。海舟は若い頃、旗本であったが「武士は喰わねど高楊枝」まさしくこの言葉通り、極貧生活の中で、でも誇り高く生活をしていた。学問に没頭していきました。貧しくて本が買えなかったものですから、もっぱら行きつけの本屋で立ち読みを日課にしておった。そこの本屋の嘉七というご主人さん、「この人熱心に学んでいるが、この風体では、本を買

うお金がないのだろう」と、察する。そこで、一人のお客さんを紹介するのです。それは渋田利右衛門です。この人は子供の頃から本好きで、商用で江戸に行ったとき、意気投合する。エピソードは長崎遊学し、海舟は利右衛門から頼りになる人物、数人を引き合わせました。１．紀州の豪商・濱口梧陵、２．灘の蔵本・嘉納治右衛門、３．伊勢商人 竹川彦三郎竹斎です。「私はもう年だから、私に変わって貧乏旗本のこの人を支援してやってほしい」と頼まれる。いかにもざっくばらんで、見識も人並み以上であり、大変な魅力を感じた。以来、親交を深める。時は幕末、梧陵 31 歳、しかし、国防に当たるはずの武士階級は萎縮してしまい、右往左往するばかりであった。こうした時代背景の中、梧陵は国防の第一人者である佐久間象山の門をたたきます。こういった流れの中、梧陵は広村に帰ります。激動の時代をおくります。そして、広村に稽古場を開設。稽古場では、剣道と槍術、漢学を教えます。

一時津波と復興事業で中断していたが、やがて、永久に続くようにと耐久社と名前を変え、梧陵の建学の精神は、今の耐久中学、高校に受け継がれています。こうした激動の中、翌年、1853 年ペリー提督が黒船４隻を率い、浦賀に入港してきます。艮斎や海舟から西洋の事情を学んではいた。そして、一年後、1854 年安政の南海地震、運命の日がやってきます。ところで、皆さん、稲村の火ではなく、稲叢の火（稲むらの火）と書きます。原作は小泉八雲。明治 29 年。

③自然災害から身を守るために

広川町の津波防災を築きます。また、今は稲むらの火避難誘導灯と言いまして、町内に１４カ所設置されています。これは震度５以上の揺れを感じるとすぐに放送が流れます。「避難して下さい」これは、蓄電池内蔵型避難誘導灯です。停電対策です。停電に遭ってもこの下は明かりがついていると言うことです。避難することが出来ます。町内に 124 基設置されています。沖合に 850ｍの防波堤が昨年完成しました。これにより津波を 50ｃｍ下げることが出来ると言われます。

その他、水門２カ所、陸閘門２カ所については遠隔操作で門を閉めることが出来ます。消防団員が現地へ行って門を閉めることで、先の震災では、亡くなったと言うことです。

④堤防築堤と梧陵の功績

この写真は現在の広村堤防です。そして松の後側に

石垣で出来た低い堤防が見えています。これは、今から 600 年ほど前に出来た畠山堤防です。やはり津波対策で、当時の畠山氏が造りました。平成５年に大規模改修があり、コンクリートで補強されています。そして、皆さんご存じでしょうか？昨年、国語の教科書に梧陵さんが載ったと言うことを。これです。光村図書という会社です。５年生が習います。中身は「百年後のふるさとを守る」という広村堤防築堤の話です。実は皆さん、この教科書のお陰で、８月の夏休み、来館者数が増えました。５年生とそのご家族で、この館を訪れてくれました。

さて、築堤の話に移りましょう。ここからがクライマックスになります。梧陵さんのすごいのは、稲むらの火の活躍の後なのです。津波に襲われた町や村、昔も今も一緒です。引き波ですべて持って行かれます。「この広村は、ワシが助けなくて誰が助けるというのか」復興に向けて、私財をなげうちました。天災の恐ろしさをイヤと言うほど感じた梧陵は、それでも気丈に行動します。その一方で、お寺の備蓄米を使うのです。しかし、幾日も支給できないと考えた梧陵は隣村の庄屋に行き、蔵米 50 石を準備します。避難所は、これでは雨露をしのぐことはできないと、仮小屋建設を依頼し、承諾をとっている。それでも村人は逃げようとするのです。「いつ津波が襲ってくるか、生活苦しい、仕事もない」「これでは村はなくなってしまう。」どうしたら、何かいい方法は、「住民百世の安堵を図る」梧陵の言葉です。百年後に津波が襲ってきても大丈夫なように 大堤防を作ろうと決意するのです。

梧陵の行動は早く、１１月に津波がきて、２月には堤防工事が始まっているのです。ですからこの３ヶ月の間に堤防工事に関するすべての段取りを取り終わったと言うことです。親類筋に協力を求め、説得すし、協力を求めます。 時間がたてばだめだということをわかっていますよね。すごいですね。1 月に紀州藩に上申しています。そして、２月に村人に説明、働けるものはみんな来なさい。実は堤防築堤には２つの大きな意味合いがあったのです。一つは百年後に襲うであろう津波これに対する①津波防災という意味。そして、津波で何もかも失った村人に仕事がなかったのです。そこに堤防づくりという仕事が来たのです。これは、②失業対策です。しかも、労賃の日払い。実は、生活が苦しいから労賃を日払いすると言った意味合いと、梧陵さんにはもう一つの深い理由があったのです。それは、自立した村人。堤防づくりはこれをめざしたのです。堤防づくりは毎日やっていません。少し融通をつけました。

翌年に梧陵さん江戸に帰りますが、番頭さんに言われます。「これは、お店が再開できるかどうかの問題ではなく、お店がつぶれるかどうかの問題です。どうかもう広村に対する支援はやめて下さい。」ときっぱりと言われます。梧陵は悩みます。すぐには決断がつきませんでした。そんなとき広村から便り、「今でも私を待ってくれている広村の人たちがいる。」そのとき梧陵は決断したのです。「なんとしてでも堤防は完成させる」

⑤梧陵後半

広村稽古場から耐久社と名前を変えました。このとき梧陵４７歳。耐久社学則の第１条に「學問の要は安民にあり・・」とあります。私はこの「安民」という言葉が使われている、ここに注目したいのです。梧陵の精神の中心に、この「安民」があった。すなわち常に「民の目線」で世の中を見ていた。ということだと思うのです。後でもう一度触れましょう。教育で言うと、福沢諭吉との出会いでしょう。諭吉とは築地の青柳というところであっています。紹介役は松山棟庵先生です。梧陵は棟庵先生と図り、西洋文明を学ぶには語学が必要と英語教育に力を入れます。共立学舎設立に動きます。明治３年２月、梧陵 51 歳。松阪民政局長として赴任します。在任わずか１年ほどですが、その間に松阪地方の開発と窮民救済政策に異常なほどの熱意を持って取り組みます。河川改修工事と窮民救済事業です。河川改修工事は何とか出来ましたが、窮民救済事業はうまくいきませんでした。構想は、貧しいものが多かったため、救済所としての機能を持った施設、職業安定所的な機能を持った施設、そして、寺子屋的な學問の出来る施設の３つを兼ね備えた施設を作ろうと計画した。その財源は？それを町民の寄付でまかなおうとしたのです。梧陵は質素に生活し、商売で得た利益は社会福祉にまわすと言う人生を歩んできました。なかなか町民には伝わらなかったみたいですね。ここに梧陵の心が表れていると感じます。常に民の目線で世の中を見ていたと言うこと、耐久社学則第１条に安民という言葉を使っていると言うこと、更に振り返れば、安政の大津波で、広村復興のために尽力したこと、これらは常に民の目線で行動し、梧陵の精神の根幹を占めている「経世済民」（世のため人のため）の志の流れがずっと続いていると言うことではないかなと思うのです。梧陵 52 歳、駅逓頭に任命されます。梧陵は商売人です。さらに初代県議会議長に選出されます。国会開設の動きが有り、板垣退助は自由党の結成、大隈重信は立憲改進党の結成と両方からの誘いもあるが、紀州には紀州の課題があると、木国同友会を創立します。そして、ついに宿願を果たし、海外渡航に旅立ち米国に渡ります。65 歳でニューヨークにて客死します。ご清聴ありがとうございました。

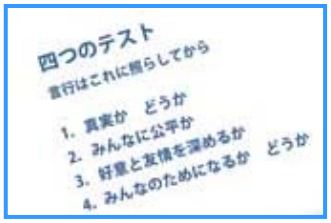
８．閉会点鐘

次回例会
第 1723 回例会　23 年 10 月 29 日(月)
海南商工会議所　４F　12：30～
海南東ロータリークラブ　同好会活動

「ロータリー文庫」は、日本ロータリー50 周年記念事業の一つとして、昭和 45 年に設立された皆様の資料室です。ロータリー関係の文献や資料など約２万３千点が収集整備され 、ロータリアンの皆さんのご利用に備えております。

国際ロータリーニュース

職業を通した活動



「職業奉仕」という言葉は耳慣れないと思いますが、ロータリアンたちが一番大切にしていること、それが「職業奉仕」です。

ロータリークラブは、企業経営者、専門職といった職業人の集まりです。会員は、それぞれの職業を代表してクラブに入会します。したがって、会員候補者は、その時点で既にその職業において高い見識と業績を積み上げてきていますが、そういった人々が集まって切磋琢磨し、さらに職業倫理の向上に努める、というのが、ロータリーにおいての職業奉仕の基本です。

また、自らの企業や専門職に関しての知識や技術の向上と発展、顧客満足、従業員やその家族に対しての責任、社会に対しての責任など、例会をはじめとするさまざまな会合ならびに奉仕活動を通して互いに学び合い、自らの職業において実践すること、これも職業奉仕です。　「四つのテスト」は、ハーバート・テーラーというアメリカのロータリアンが、ある企業の再建を引き受けたときに考えた企業の倫理的指針です。彼は、これによって見事にその企業の再建を果たしました。それ以来、ロータリアンたちに職業倫理の指針として広く愛用されています。

職業奉仕で若者へのキャリア支援を

セント・ジョセフ・ベントン・ハーバー・ロータリークラブ（米国ミシガン州）は、職業奉仕プログラムの一環として、地元の高校 2 年生と 3 年生に、それぞれが関心を持つ業界で活躍する職業人と接する機会を提供し、キャリア開発支援を行っています。これは、クラブが 2008 年に始めたメンター・プログラムであり、普段見ることのできないさまざまな職業の舞台裏を紹介することで、職業的関心を高めることを目的としています。参加した学生たちは、各業界で活躍する業界人から、夢をつかむためのアドバイスを受けることができます。参加学生の選考は地元の学校が行います。このプログラムには、これまで 300 人以上の高校生が参加し、弁護士、医者、フォーチュン 500 企業の CEO、放送ジャーナリスト、警察官、プロのフットボール選手など、幅広い職業のメンターと交流しました。その場には 2 人のロータリアンが同行し、プログラム終了後、参加した高校生たちはクラブ例会で結果報告をすることが求められています。クラブ会長でプログラム委員長でもあるジャッキー・ヒューイさんは、このようなプログラムの実施を通じて、学生のキャリア目標や進路変更を支援していると話します。

会報委員会　委員長:谷脇 良樹　副委員長:奥村 匡敏　委員:小椋 孝一　岸 友子　横出 廣　阪口 洋一